

1 目標指標の達成状況

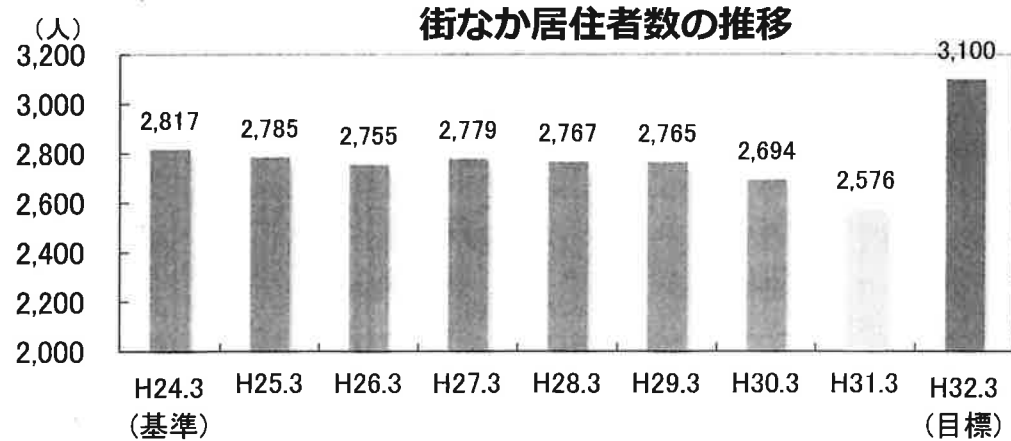
目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	目標指標達成状況
街なか居住の促進により、居住人口の増を図る	街なか居住者数	2,817 (H24.3)	3,100 (H32.3)	2,576 (H31.3)	未達成
既存ストックの活用によるにぎわいの創出と魅力づくりにより、来街者、歩行者の増を図る	歩行者通行量(平日)	22,905 (H24)	24,000 (H31)	24,235 (H30)	達成

2 目標指標ごとの進捗状況

※主要事業の進捗状況は、参考1のとおり

(1) 「街なか居住者数」

ア 調査結果の推移



※調査方法：住民基台帳から集計
 ※調査月：4月
 ※調査主体：帯広市
 ※調査対象：中心市街地

イ 目標指標達成状況の理由

未達成となった主たる理由は、計画策定時に104人の居住者数の増加を見込んでいた「西2・9西地区優良建築物等整備事業」が事業中止の状況が続いていること、また、244人の居住者数の増加を見込んでいた「開広団地再整備事業」が平成30年度末で95人の居住者数の増加にとどまっていることである。

また、中心市街地周辺部では新たな集合住宅の建築など、居住施設整備が見られるものの、中心市街地エリアではその動きが低調であることも要因と考えられる。

(中心市街地及びその周辺部における昨年対比で人口増減が大きいエリアは、参考2のとおり)

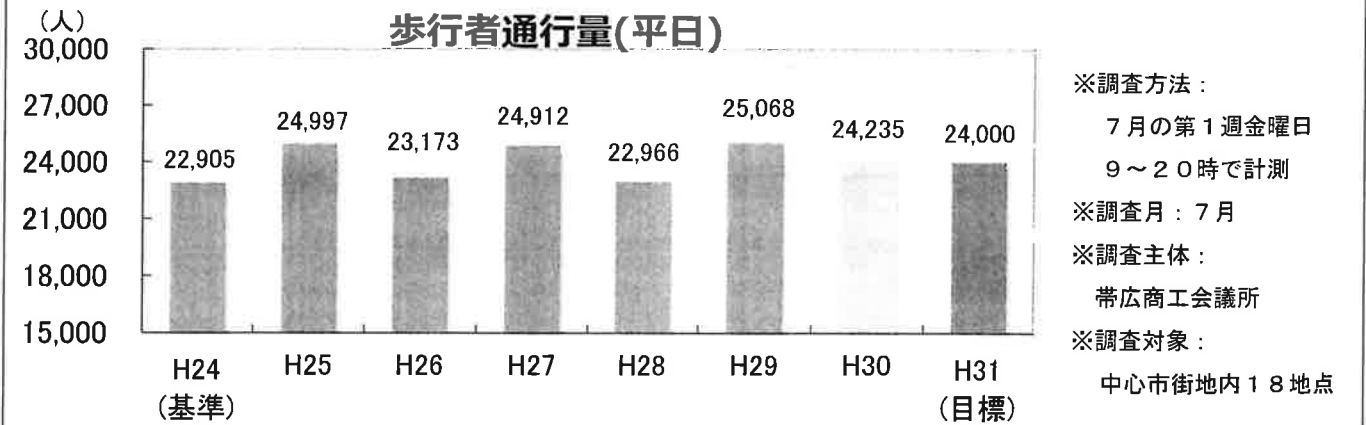
ウ 今後について

「開広団地再整備事業」は、有料老人ホーム棟の入居者が昨年度から22名増加しており、入居が介護職員の雇用に応じて段階的に進められている。今後より一層の効果を発現させていく必要がある。

また、現在、「西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業」において、19階建て147戸の大規模な居住施設の建設が行われており、引き続き着実な事業推進を支援していくなど、まちなか居住に向けた取り組みを進めていく。

(2) 「歩行者通行量(平日)」

ア 調査結果の推移



※調査方法：7月の第1週金曜日
 9～20時で計測
 ※調査月：7月
 ※調査主体：帯広商工会議所
 ※調査対象：中心市街地内18地点

イ 目標指標達成状況の理由

達成となった主たる理由は、計画策定時と比較して「平日昼間の歩行者通行量」は減少傾向にある中で、「北の屋台事業」に加え、「街なかコミュニティ・ホテル事業」がインバウンドも含めた交流人口の受け皿機能を発揮し、宿泊客数が増加したことなどにより、「平日夜間の歩行者通行量」が増加していることが要因と考えられる。

ウ 今後について

今年度は、民間事業者によるホテルオープンが予定されており、十勝・帯広が舞台となったNHK連続テレビ小説「なつぞら」の効果とも相まって交流人口の増加が予想されているほか、中心市街地に「創業・起業、事業創発を目指す人材や支援者等が集い交流する施設」の整備が予定されており、情報交換や勉強会等による日常的な賑わいも期待されている。

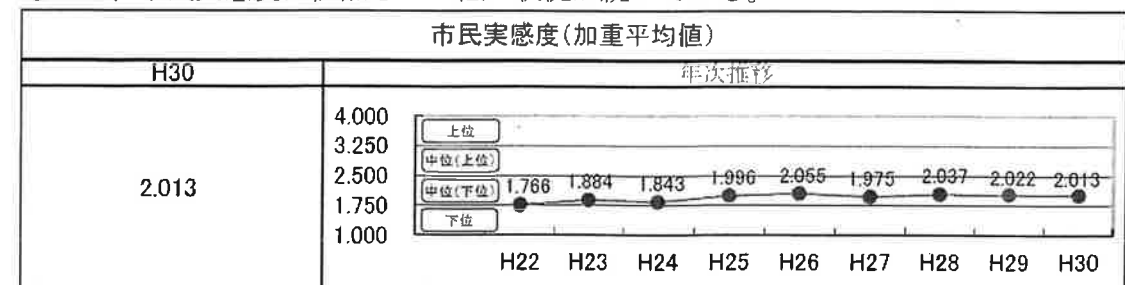
このような中で、第2期計画で唯一事業未実施となっている「西2・9西地区優良建築物等整備事業」は、事業の早期再開により、さらなる歩行者通行量の増加が見込まれることから、引き続き、事業者と協議を進めていく。

この他、計画に位置付けた事業を着実に推進し、とりわけ、現在整備中の「西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業」において、店舗棟や事務所棟の整備に伴う来街者の増加のほか、分譲マンション建設に伴うまちなか居住者数の増加による日常的な買い物などにより、歩行者通行量の増加を図っていく。

3 市民意識の変化について

帯広市では毎年度、市民まちづくりアンケートを実施しており、その中で「中心市街地に魅力とにぎわいがある」の設問を設け、市民実感を調査している。

直近年度(H30)の加重平均値は2.013となり、第2期計画実施前(H24)の1.843から、0.17上昇したものの、市民実感度は依然として低い状況が続いている。



参考1

目標達成に寄与する主要事業の状況

1 開広団地再整備事業（帯広市開広団地地区第一種市街地再開発事業個人施行者）

事業概要	過去に卸売団地として整備された地区において機能の更新を図るため、市街地再開発事業により高齢者向けの居住機能（有料老人ホーム）、デイサービス、賃貸住宅、商業施設などの機能を有する施設整備を行う。
目標値・最新値	目標値：街なか居住者数 244 人増 最新値：95 人の増（H31.3）
目標達成状況	平成 25 年度に実施設計が完了し、平成 26 年 4 月から本体工事着工。平成 27 年 2 月整備は完成。平成 31 年 3 月末現在、居住者数は 95 人とどまっており、目標の達成には至っていない。
目標を達成出来なかった理由	整備完了以降、各施設への入居が進められているが、賃貸住宅はほぼ満室の状態が続いているものの、有料老人ホームについては職員の雇用確保に腐心しており、職員雇用の進捗に合わせて、段階的な入居を進めている状況であるため。

2 西2・9西地区優良建築物等整備事業（医療法人社団 博愛会）

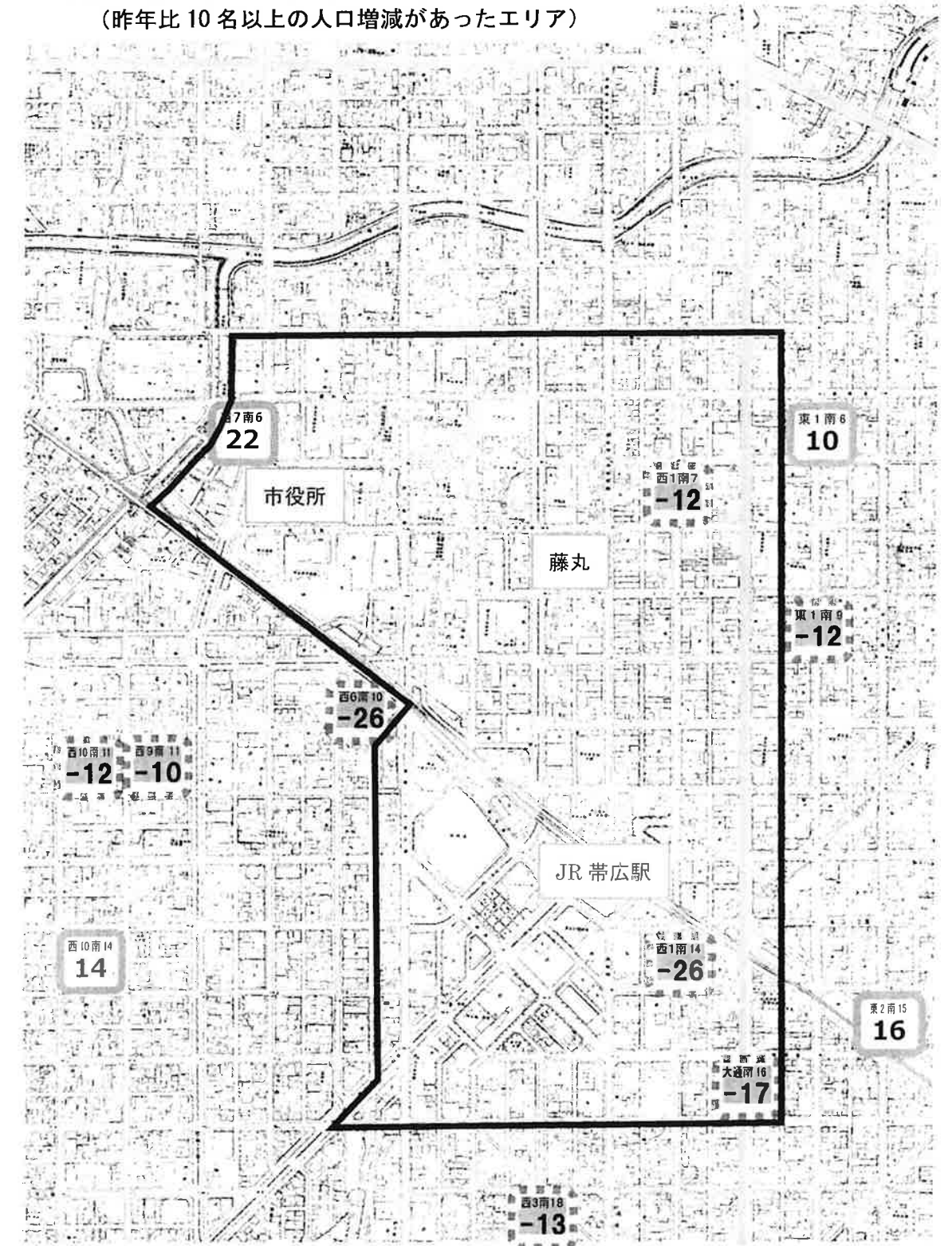
事業概要	大型建築物の移転跡地に高齢者向けの住居やサービス施設、商業施設などの複合施設を整備する事業
目標値・最新値	目標値：街なか居住者数 104 人増 最新値：事業未完了により 0
目標達成状況	居住系では高齢者向け住居 69 戸、賃貸住宅 22 戸、このほか関連サービス施設、商業施設を含んだ複合施設の建設を計画していたが、建設資材価格の高騰により本体工事の入札が不調に終わり、事業は完了していない。
目標を達成出来なかった理由	資材価格の高騰により本体工事の入札が不調となり、現在の資金による事業実現は難しくなったことから、本体工事以降の着手に至らなかったため。

3 広小路アーケード空間を活用した集客・回遊・滞留事業（帯広広小路商店街振興組合）

事業概要	平成 23 年度に改修した広小路アーケードの空間を活用し、「七夕まつり」、「中城ふみ子の歴史展」、「スイーツフェア」などのソフト事業を実施する。
目標値・最新値	目標値：歩行者通行量 496 人増 最新値：582 人の減（広小路アーケード近隣地区の歩行者通行量 H24 と H30 の差）
目標達成状況	「七夕まつり」、「帯広まちなか歩行者天国」など、アーケード空間を活用し、商店街に人を呼び込む各種ソフト事業を展開したものの、平日の歩行者通行量は 582 人減少しており、目標の達成には至っていない。
目標を達成出来なかった理由	商店街や関係機関・団体により多種多様なイベントや取り組みを実施しているが、個店の魅力発信など平日の来街を促す事業の効果が期待通りに発揮されていないため。

参考2

中心市街地及びその周辺部の人口増減が大きいエリア
（昨年比 10 名以上の人口増減があったエリア）



【参考】1年前との人口比較

- ◇ 市内全域（166,867 人→166,093 人 99.5%）
- ◇ 中心市街地（2,694 人→2,576 人 95.6%）

【参考】増加している主な地区（市内全域）

- ◇ 西 18 条南 34 丁目（69 人→176 人 255%）
- ◇ 清流南 4 丁目（576 人→661 人 115%）
- ◇ 大空町 1 丁目（544 人→619 人 114%）